

平成29年度 八風中学校学校教育診断 集計結果

生徒: 91%
 回答率 保護者: 93%
 教職員: 100%
 菰野町立八風中学校

この「学校教育診断」は、学校教育ビジョンに基づいて取り組みました本校の教育活動を全校生徒と全保護者の皆様に診断していただくために行ったものです。本校としては、この診断結果及びアンケートに書いていただいた個別の意見を十分検討して、平成30年度「八風中学校教育方針」と「学校教育ビジョン」を策定する予定ですが、今回の結果や考察、並びに今後の診断の在り方等についてのご意見やご感想、ご助言をいただければ幸いです。(平成30年2月)

■この「教育診断」は、学校教育全般を、「教育目標」「学習面」「生活面」「家庭や地域の信頼に応える学校づくり」の4つの領域に区分し、それぞれの領域を複数の診断内容で診断していただきました。
 (1)、(2)が「教育目標」、(3)～(8)が「学習面」、(9)～(12)が「生活面」、(13)～(18)が「家庭や地域の信頼に応える学校づくり」についての診断(設問)です。
 ■診断には4段階評価を採用しましたが、5段階評価の場合の「どちらともいえない」をなくすことで、「肯定的な評価=できた(4,3)」「否定的な評価=できなかった(1,2)」を明確にすることができたのではないかと考えます。

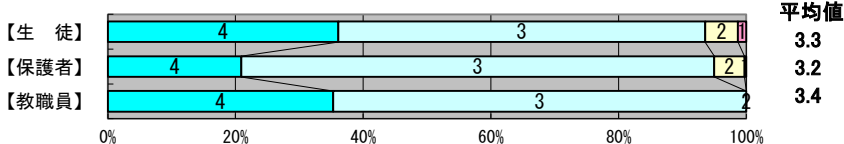
【4:よくあてはまる, 3:だいたいあてはまる, 2:あまりあてはまらない, 1:あてはまらない】

(1) 学校教育目標・学校教育ビジョンの適正

【生徒】	学校教育目標「仲間とともに学び合い 支え合って生きる生徒の育成」は、私たちの学校生活に即している(合っている)。
【保護者】	学校教育目標・学校教育ビジョンは子どもたちの実態から見て適切なものである。
【教職員】	学校教育目標・学校教育ビジョンは生徒たちの実態に即した適切なものである。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は90%超え、保護者は約95%、教職員は100%であった。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒及び保護者が微減、教職員が増加であった。また、「4」の評価をした保護者が7%増加し、教職員も8%増加した。



学校関係者評価

生徒たちの実態に合った学校教育ビジョンになっている。

今後の改善点・方向

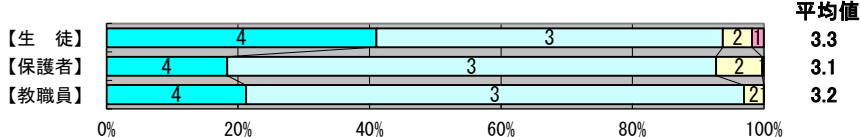
この学校教育ビジョンを継続し、今後も取組を進める。

(2) 学校教育目標・学校教育ビジョンの実現に向けた努力

【生徒】	先生たちは、八風中学校を「良い学校」にするために努力している。
【保護者】	学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態にある。
【教職員】	学校教育目標・学校教育ビジョンの実現に向けて適切な取り組みが行われている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに90%超えであった。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者・教職員が微増加であった。



学校関係者評価

取組の成果が出ていると思われるが、学校教育活動に十分満足していない方の意見も丁寧に聞いていく必要がある。

今後の改善点・方向

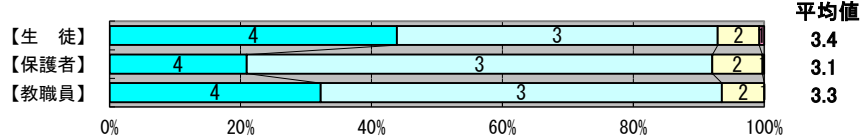
基本的には今の取組を継承しつつ、教育活動の改善を行う。

(3) わかる授業

【生徒】	先生たちは、楽しくて学びがいのある授業になるように努力している。
【保護者】	先生たちは、楽しくて質の高い授業を行うよう努力している。
【教職員】	聴き合う関係、ジャンプのある学び、真正の学びを追及した授業に真剣に取り組んでいる。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに90%超えであった。特に、生徒の評価「4」が40%を超えていた。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が(3~5%)増加、保護者が微増、教職員が増加した。また、「4」の評価をした生徒が9%増加し、教職員も12%増加した。



学校関係者評価

取組の成果が出ていると思われるが、教職員の過信にならないよう注意する必要がある。

今後の改善点・方向

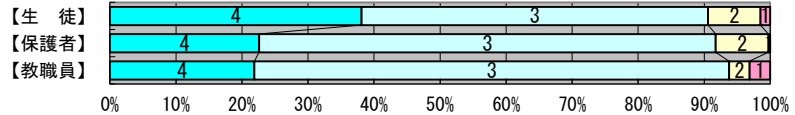
基本的には、今行っている「学びの共同体」を継承し、教職員の振り返りを行うことで、継続的な授業改善を行う。

(4) 特色ある教育課程の編成

【生徒】	学校では、興味ある授業(総合的な学習の時間など)や行事が行われている。
【保護者】	学校では、特色ある教育活動(総合的な学習の時間・行事など)が行われている。
【教職員】	特色ある教育課程となるよう、総合的な学習の時間や行事等の工夫に取り組んでいる。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員が90%超えであった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者が微増、教職員がやや増加であった。



平均値
3.3
3.1
3.1

学校関係者評価

取組の成果が出ていると思われる。今後も体験的な学習を入れていくことが効果的である。

今後の改善点・方向

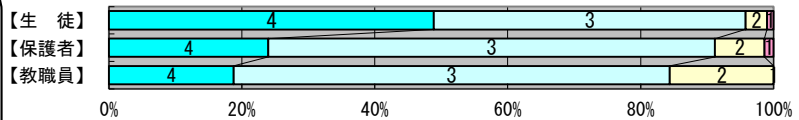
行事等や総合の振り返りを行い、内容の精選、充実を図っていく。また、年間計画等の見直しを行う。

(5) 道徳・人権教育の充実

【生徒】	学校では、命の大切さや社会のルール、人権問題についてよく学習する。
【保護者】	学校は、豊かな心をもち人権を大切に育てようとしている。
【教職員】	「心の教育」の充実のため、道徳・人権教育の推進に努力している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は95%超え、保護者は90%超え、教職員は約85%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者が微減、教職員が著しく減少した。また、「4」の評価をした教職員が5%減少した。



平均値
3.4
3.1
3.0

学校関係者評価

取組が十分な成果に繋がっていない面がある。課題を明らかにし改善する必要がある。

今後の改善点・方向

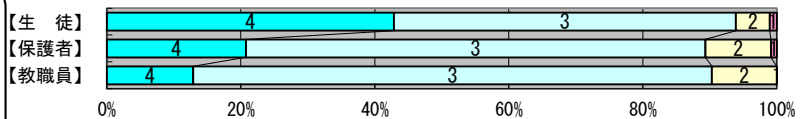
年間計画等の見直しによる充実を図り、教職員の共通理解を図る。

(6) 進路指導の充実

【生徒】	学校では、将来の進路について学習をしたり、情報を知らせてもらったりしている。
【保護者】	学校は、進路や生き方の学習に力を入れている。
【教職員】	生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう、3年間を見通した進路指導やきめ細かい情報提供を行っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・教職員は90%超え、保護者は約90%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が微増、保護者が約(3~5%)増加、教職員が減少し、「4」の評価をした生徒が5%増加した。一方「4」の評価をした教職員は11%減少し



平均値
3.4
3.1
3.0

学校関係者評価

生徒はほとんど満足していると思われる。また、教職員については、教職員の目標が高くなっているため、評価が下がったと思われる。

今後の改善点・方向

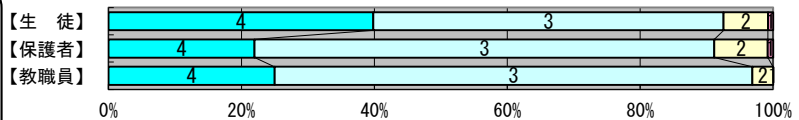
進路の各学年の目標について共通理解を図ることで、体系的な取組の充実を図る。

(7) 適切な評価

【生徒】	先生たちは、学習の評価を適切にしてくれている。
【保護者】	学校は、学習におけるお子さんの能力や努力、学力を適切に評価してくれている。
【教職員】	すべての生徒の学ぶ権利を保障し、その能力と学力を適切に評価している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は90%超え、教職員は95%超えであった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が(3~5%)増加、保護者・教職員が微増であり、「4」の評価をした生徒が5%増加し、「4」の評価をした教職員は6%減少し



平均値
3.3
3.1
3.2

学校関係者評価

おおむね生徒は適切な評価が行われていると考えている。ただ、生徒・保護者の中には評価に疑問を感じている人がいることも学校は考えるべきである。

今後の改善点・方向

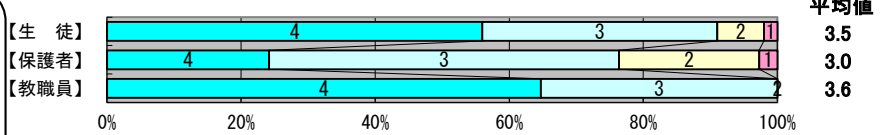
生徒・保護者が分かりやすい評価になるよう、評価資料等を明確にしていくことや評価基準・規準の明確化を図る。

(8) 「朝の読書」の有効性

【生徒】	「朝の読書」で、以前より読書するようになったり、落ち着けるようになってきている。
【保護者】	「朝の10分間読書」をしていることで、お子さんは、以前より読書に関心を持ち、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。
【教職員】	「朝の読書」により、生徒たちは読書への関心が高まったり、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は約90%、保護者は75%、教職員は100%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が微増、保護者が微減、教職員は同じであった。また、「4」の評価をした生徒が8%増加し、教職員も9%増加した。



学校関係者評価

本を手にする機会が少なくなっていることが、読書離れに影響している。また、図書室での本の貸し出しが少ない。

今後の改善点・方向

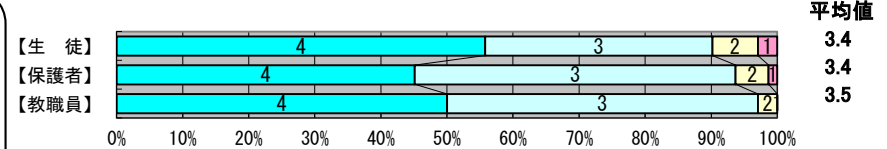
朝読書の充実を始め、授業等による図書室の利用を増やすことで、生徒が本と触れ合う機会を増やす。本の帯作りやビブリオバトルなどの取組を推進する。

(9) 充実した学校生活

【生徒】	学校生活は楽しい。
【保護者】	お子さんは、楽しい学校生活を送っている。
【教職員】	生徒は、伸び伸びと学び、充実した学校生活を送っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は90%超え、教職員は95%超えだった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者・教職員が微増であった。また、「4」の評価をした教職員が9%増加した。



学校関係者評価

「4」の値が生徒・保護者・教職員ともに高く、取組の成果が出ている。しかし、生徒の10パーセントは満足できていない実態があり、そのことを教職員はしっかり捉えていく必要がある。

今後の改善点・方向

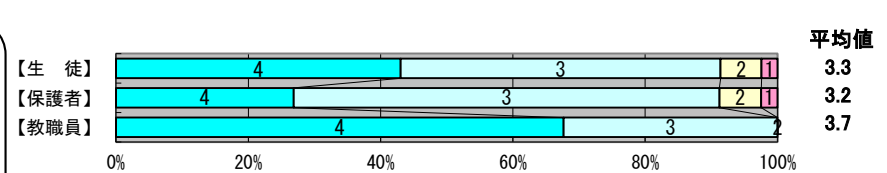
ほとんどの生徒・保護者が満足している実態があり、学校の取組の一定の成果がある。しかし、満足できていない生徒や保護者の思いに寄り添うために、改めて丁寧な人間関係づくりを推進する。

(10) 生徒指導上の問題への対応

【生徒】	先生たちは、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。
【保護者】	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。
【教職員】	いじめや校内暴力などの生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は約90%、教職員は100%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者が微増、教職員が5%以上の増加となった。また、「4」の評価をした教職員が12%増加した。



学校関係者評価

教職員が生徒指導において、組織的な対応ができるようになったと考えている。その成果が徐々に出てきている。

今後の改善点・方向

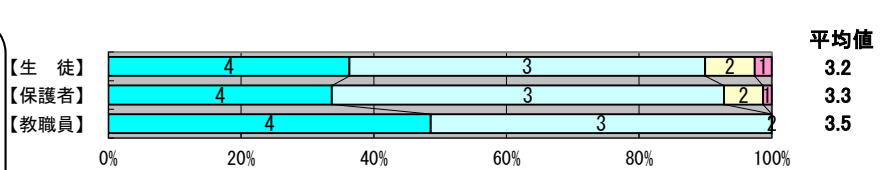
今後も報告・連絡・相談を基盤とした組織的な対応を進めていく。今の取組を検証し、さらに充実した生徒指導体制を構築する。

(11) カウンセリングマインドに基づく生徒との関わり

【生徒】	先生たちは、親身になって接してくれる。
【保護者】	先生たちは、お子さんに親身になって接してくれている。
【教職員】	生徒とのふれ合いを大切にして、生徒の心に寄り添う生徒指導に努めている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は90%超え、教職員は100%だった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒と保護者が微増、教職員(3~5%)増加であった。また、「4」の評価をした教職員が13%減少した。



学校関係者評価

取組の成果が出ている。この取組を今後も継続していく必要がある。

今後の改善点・方向

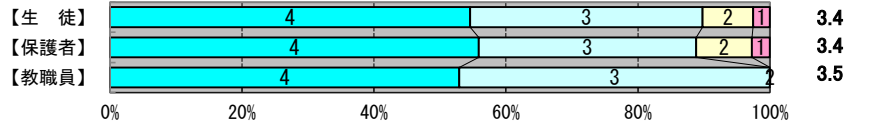
毎学期、事前アンケートをとり、教育相談週間を設けていることで、生徒との関係づくりが進んでいる。また、休み時間のふれあいタイム等生徒に寄り添う取組の成果が出ている。今後も継承していく。

(12) 部活動の充実

【生徒】	部活動は、楽しく充実している。
【保護者】	お子さんは、部活動に喜んで参加している。
【教職員】	課外活動の役割を認識し、部活動の指導に取り組んでいる。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は90%超え、保護者は約90%、教職員は100%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒・保護者が微減、教職員が数%（3～5%）増加した。また、「4」の評価をした保護者が6%増加し、教職員も15%増加した。



学校関係者評価

部活動の休みを効果的に取ることで、満足度が上がったと考えられる。

今後の改善点・方向

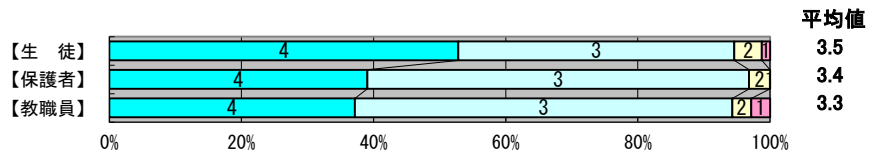
毎週1回から2回の部活動の休みを入れる。また、練習時間についても適切な時間を考えていく。

(13) 保護者や地域の人たちとの連携

【生徒】	授業参観や総合的な学習の時間等で、家族や地域の人たちが学校へ来ていただく機会がある。
【保護者】	学校は、保護者や地域の人たちに授業を公開したり、子どもたちが地域の人たちに教えてもらう機会を設けている。
【教職員】	「地域に開かれた学校づくり」を目指し、保護者や地域の人たちとの連携を大切にしている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに約95%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒と保護者が微減、教職員が著しく増加した。また、「4」の評価をした保護者が8%増加し、教職員も6%増加した。



学校関係者評価

取組の成果が出ている。これからさらに向上していくと思われる。

今後の改善点・方向

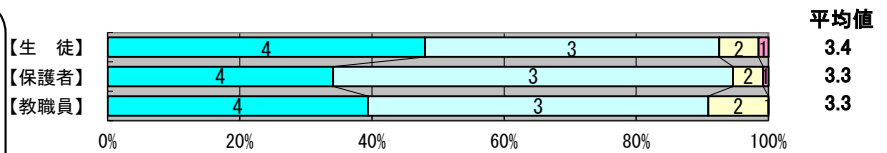
学校開放週間や授業参観等学校が地域に開いている成果がでている。今後もさらなる改善を図り、取組を進める。

(14) 危機管理体制（安全対策）

【生徒】	安心して学校生活を送ることができる。
【保護者】	学校は、お子さんが安心して学校生活が送れるよう安全に配慮している。
【教職員】	生徒たちが安全な学校生活を送れるよう日常的に安全指導を行ったり、不審者対応などの不測の事態に対処できる危機管理体制が整っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員はともに90%超えであった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が微増、保護者・教職員が微減であった。また「4」の評価をした生徒が7%増加し、教職員も22%増加した。



学校関係者評価

教職員の中に不十分だと考えている人が何名かいる。危機管理体制について、全体で振り返り、改善する必要がある。

今後の改善点・方向

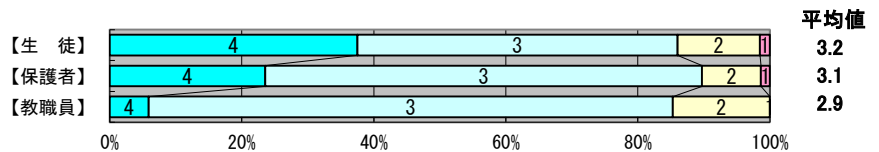
危機管理体制の構築が必要である。そのために、職員会議等で確認する時間を持つ必要がある。

(15) 学校施設・設備の環境整備、有効活用

【生徒】	学校の施設や設備は、学習や部活動・行事などをする上で、快適・安全に整備され、使いやすい。
【保護者】	学校の施設や設備は整備が行き届いており、お子さんが快適・安全に学校生活を送ることができる環境となっている。
【教職員】	学校の施設や設備は、学習や部活動・行事などをする上で、快適・安全に整備され、有効に活用されている。

集計結果・前年度比

平均値は、生徒・保護者は3.0を超えたが、教職員は3.0を下回った。肯定的な評価の割合は、生徒・教職員は約85%、保護者は約90%であった。昨年度と比べ、肯定的な評価は生徒が微増、保護者が5%以上増加、職員が10%以上増加した。また、「4」の評価をした生徒は6%増加し、保護者も5%、教職員も6%増加した。



学校関係者評価

施設・設備が十分でないと考えている教職員がまだまだ多い。

今後の改善点・方向

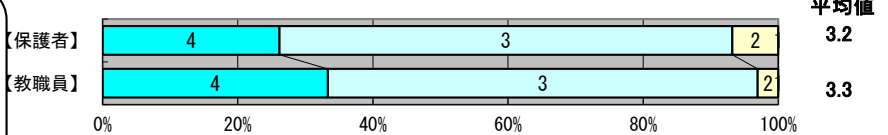
今後も計画的な施設・設備の修繕を行い、学習環境の整備を進める。修繕の優先順位をつける。

(16) 情報発信の努力

【保護者】	学校は、懇談会や学校通信などで教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている。
【教職員】	懇談会や学校通信などで、教育方針や学校の様子を保護者や地域にわかりやすく伝えている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者・教職員ともに約95%であった。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は保護者が微減、教職員が微増であった。



学校関係者評価

学校からの情報発信が進んでいる。

今後の改善点・方向

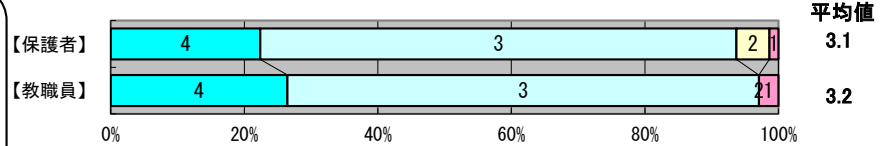
今後も今までの取組を継承していく。

(17) 情報受診の努力 (保護者・地域の願い・思い)

【保護者】	学校は、親や地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。
【教職員】	家庭訪問や地域の行事への参加などを通して、保護者や地域の人たちの願いを掴むように努力している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者は90%超え、教職員は95%超えであった。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は保護者・教職員ともに微増であった。また、「4」の評価をした教職員が6%減少した。



学校関係者評価

家庭訪問の時間は、どうしても勤務時間以降となることが多い。また、家庭訪問をしてもなかなか会えない家庭がある。

今後の改善点・方向

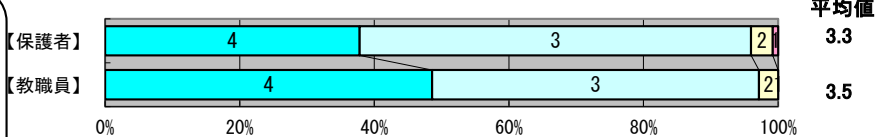
家庭訪問の目的や意義について、見直す必要がある。また、家庭訪問ができない家庭については、関係機関と連携して取組を進める。

(18) 教職員の対応 (接遇)

【保護者】	学校(教職員)は、電話での問い合わせや学校を訪問したときに、誠実に対応している。
【教職員】	保護者や地域の人たちからの問い合わせや来校者に対して誠実に対応している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者・教職員ともに95%超えであった。
 昨年度と比べ、肯定的な評価は保護者が微減、教職員が増加した。また、「4」の評価をした教職員が7%減少した。



学校関係者評価

保護者対応が不十分と考えている教職員が増えたのは、教職員の対応レベルが高くなったのでは。

今後の改善点・方向

全体的には満足している結果が出ているので、これまでの取組等を継承する。ただ、十分とはいえない面もあるため、改善の視点を持つ必要がある。

<全体考察>

◆評価の目標達成について

◎昨年度ははじめてすべての項目の平均値が3.0を超えましたが、本年度は1項目のみ目標を達成できませんでした。

《平均値が3.0未満の項目》

○教職員＝(15)学校施設・設備の環境整備、有効活用…2.9

◎評価の目標達成率(「4」「3」評価の割合)を75%に設定したとき、本年度はすべての項目で達成できました。

また、目標達成率が80%を超えなかったものも1項目だけであり、ほぼすべての項目で80%を超えるという高評価を得ることができました。次年度の目標達成率は80%に設定することを検討します。

《H28年度で評価が80%未満であった項目と数値》

○保護者＝「(8)朝の読書」…78.5%

○教職員＝「(15)学校施設・設備の環境整備、有効活用」…72.4%

《H29年度で評価が80%未満であった項目と数値》

○保護者＝「(8)朝の読書」…76.4%

※教職員の「4」の評価の増減については、人数が生徒や保護者に比べ少ないことから、大きな変化が起こりやすいことを考慮する必要があります。

※生徒・保護者の「4」の評価が5%以上下がった項目はありませんでした。

◆全体的に見て

○ほぼ全ての項目で満足できる結果になっている。教育活動として順調に進んでいると考えられる。さらに、教育活動を充実させるには、定期的な検証と見直しが必要である。また、「学びの共同体」と「学校運営協議会」を軸に今後も取組を進めることが学校教育ビジョンの達成に繋がると考える。生徒同士のつながり、生徒と教職員のつながり、学校と家庭・地域のつながりをより強いものにしていきたい。